



## All Japan Road Race Championship 2022 **RACE REPORT**

SDG Honda Racing / SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

Round

**7**

Okayama

### ■SDG Media Infomation

#### 2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第7戦 SUPERBIKE RACE in OKAYAMA

岡山県・岡山国際サーキット (1周=3.747km)

9月17日(土):公式予選 天候:曇り コース:ドライ

9月18日(日):決勝 天候:曇り・雨 コース:ドライ・ウエット

観客動員数:5,050人(2日間合計)

#### JSB1000クラス #5 名越 哲平 SDG Honda Racing

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 欠場

決勝: 欠場

#### JSB1000クラス #28 榎戸 育寛 SDG Honda Racing

マシン: Honda CBR1000RR-R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 2番手 (タイム: 1分31秒002)

決勝: 12位

#### ST600クラス #33 國井 勇輝 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 6番手 (タイム: 1分35秒559)

決勝: 5位

#### ST600クラス #20 千田 俊輝 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR600RR タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 21番手 (タイム: 1分36秒926)

決勝: DNS

#### J-GP3クラス #9 小合 真士 SDG Motor Sports Jr. Team

マシン: Honda NSF250R タイヤ: BRIDGESTONE

予選: 10番手 (タイム: 1分42秒006)

決勝: 8位

#### MFJ CUP JP250 国際クラス #71 赤間 清 SDG Motor Sports Racing Team HARC-PRO.

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 19番手 (タイム: 2分10秒765)

決勝: 15位 (インタークラス: 9位)

#### MFJ CUP JP250 国際クラス #27 石井 千優 SDG N-PLAN Racing

マシン: Honda CBR250RR タイヤ: DUNLOP

予選: 5番手 (タイム: 1分52秒761)

決勝: 7位 (インタークラス: 5位)

- 1 Motegi
- 2 Suzuka
- 3 Autopolis
- 4 Sugo
- 5 Tsukuba
- ★ Suzuka 8H
- ★ ARRC R3
- 6 Autopolis
- 7 Okayama
- 8 Suzuka

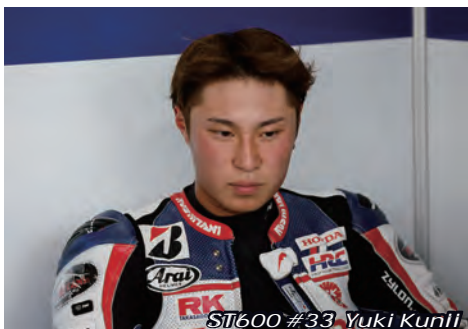


## SDG 榎戸育寛が最終ラップに勝負に出るが痛恨の転倒



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

全日本ロードレース選手権は、今回を含めて残り2戦となり、2022年シーズンも大詰めとなってきた。前戦オートポリスでは、好調な走りを見せながらも体調悪化でレースができなかったSDG Honda Racingの榎戸育寛は、岡山国際サーキットでも、事前テストから速さを見せ初日、2日目とトップタイムを記録。今回こそレースを戦い抜き、表彰台に上がりたいところだった。レースウィークに入っても初日は、中須賀選手に次ぐ2番手につけHonda勢ではトップにつけていた。



ST600 #33 Yuki Kunii

ST600クラスの國井勇輝も着実なステップを踏み、初めて走る岡山ながら激戦クラスの中で、その存在感を増してきていた。一方、千田俊輝は、タイムを縮めているものの、まだまだトップとの差は大きかった。

JSB1000クラスの公式予選は、ノックアウト方式で行われ、まずは全員が走るQ1が行われ、榎戸は1分31秒333で2番手につけた。Q1のトップ10で争われるQ2では、さらにタイムを伸ばし、1分31秒002をマークし2番手となり、フロントロウからスタートすることになった。

ST600クラスは、激しいアタック合戦となり、何と上位16番手までコースレコードを更新。その中で國井は6番手につけ、決勝に向けて上々の仕上がりがだった。千田は、自己ベストを更新したが21番手となっていた。



ST600 #33 Yuki Kunii

大型の台風14号の接近により、決勝日のタイムスケジュールが1時間前倒しとなり、各クラスの周回数が変更された。JSB1000クラスは、24周から20周に減算されて行われた。

榎戸は、まずまずのスタートを切り3番手で1コーナーに入っていくが、ダブルヘアピン1個目の進入で濱原選手にかわされ4番手にポジションを落とす。その間にトップ2台はペースを上げていき差が広がってしまう。榎戸は、4周目のバックストレートからヘアピンへのブレーキングで濱原選手をかわし3番手に上がると、そこからペースアップ。レース終盤には、2番手を走る作本選手に迫ると、最終ラップのダブルヘアピン1個目へのブレーキングで勝負に出る。作本選手のインから前に出た榎戸だったが、痛恨のスリップダウン。再スタートはできなかったが、12位完走扱いとなった。



JSB1000 #28 Ikuhiro Enokido

最後に行われたST600クラスは、國井は好スタートを切り5番手でトップグループにつけていたが、千田は、2周目の1コーナーでブレーキングをミスしてしまい他車と接触転倒。その後、赤旗が提示されレースは中断。さらに2度目のスタートでは、直前に雨が降り始め、スタートすると1コーナーで多重クラッシュが発生し、2度目の赤旗中断となってしまう。



ST600 #20 Toshiki Senda

雨は止んだもののウエットコンディションとなり、レースは10周で争われることになる。千田は残念ながらグリッドにつけなかった。一方、國井は5番手につければ、グリップしない路面に苦戦。それでも2周目のアトウッドカーブで阿部選手をかわして4番手に浮上。前を走るライダーを追っていくが、3周目に再び阿部選手にかわされるが、4周目に抜き返す。しかし、思うようにペースを上げられず阿部選手に再びかわされ5番手に降順。そのまま難しいコンディションの中、ポジションをキープした國井は5位でフィニッシュした。



J-GP3 #9 Ogo Shinji

J-GP3クラスの小合真士は、10台ほどの集団での6番手争いを繰り広げ8位でチェッカーフラッグを受けている。

MFJ CUP JP250の赤間清は、練習走行から自己ベストを更新するなど好調だったが、岡山の地元勢に押されインター 9位でゴール。石井千優は、土岩選手と一騎打ちの6位争いを繰り広げるが、レース終盤に離され7位でフィニッシュしている。



JP250 #27 Chihiro Ishii

### ■榎戸育寛コメント

「いろいろ課題が残るレースになりました。序盤のペースアップの仕方などレースを走ったからこそ分かったことでもあります。レース後半は、ペースを作る自信はありましたし、実際に追い上げることができました。結果は悔しいものですが、その分、最終戦鈴鹿は、3レースありますし、よかった部分を伸ばし課題を解決して、今度こそ、しっかりチェッカーフラッグを受けていい結果を残したいですね」

### ■國井勇輝コメント

「前戦に続いて、岡山も初めてのコースなので、難しいと感じながらも、オートポリスからの延長線上でセッティングとかバイクの理解ができたと思います。決勝は、ドライがよかったのですが、雨でも納得いくリザルトではないですけど、ベストは尽くせたと思います。次回の最終戦は、鈴鹿8耐でたくさん走りましたし、この調子でいけば、いいところを走れると思います」

### ■千田俊輝コメント

「1分36秒台に入ったところで、なかなかタイムを詰めることができませんでした。朝のウォームアップ走行で変更したセッティングがいいフィリングだったので、決勝でペースアップできるかと思っていたのですが、自分自身でレースを台無しにしてしまいました。巻き込んでしまった選手にお詫びいたします」



JP250 #71 Kiyoshi Akama

### ■赤間清コメント

「走り出しは、あまりよくなく、2本目でセットを見直したら自己ベストを更新できました。予選でも、さらにタイムを詰めることができたのですが、周りもタイムアップしたので18番手。決勝も目標とする集団があったのですが、そこには届きませんでした。しっかりバトルする相手がいてゴールすることができたので、次戦につながるレースになりました」